

阿南安芸自動車道 <sup>むぎ</sup>牟岐～<sup>のね</sup>野根

第3回 説明資料

平成27年 3月18日

## 目次

1. 前回の審議内容	…	2
2. 第2回意見聴取の結果	…	4
4. 対応方針(素案)の検討	…	17
5. 自治体への意見照会結果	…	25
6. 対応方針(案)のまとめ	…	30

## 1. 前回の審議内容

## 平成26年度 第1回 四国地方小委員会の概要

- 実施日  
平成26年6月5日(木)
- 主な議題
  - ①第1回意見聴取の結果
  - ②対応方針(案)の検討
  - ③第2回意見聴取方法(案)

## 平成26年度 第1回 四国地方小委員会での主な指摘事項と対応状況

指摘事項	対応状況
<p>意見聴取にあたり、各ルート帯案の考え方や内容について、地域住民の方へ丁寧で分かりやすい説明を行ってほしい。</p>	<p>地域住民の方などを対象として、各ルート帯案の計画内容やアンケートの内容についての説明会(オープンハウス)を徳島県牟岐町、海陽町及び高知県東洋町で開催。</p> <p>説明会(オープンハウス)の開催にあたっては、案内チラシをアンケート票配布封筒に同封し、地域住民の方などへ周知を図った。</p> <p>⇒説明会(オープンハウス)の詳細は、7ページに掲載</p>
<p>意見聴取の回収率が低い地区については、回収率が向上するような工夫を行ってほしい。</p>	<p>アンケート調査の実施について、新聞広告、ポスター掲示に加え、徳島県牟岐町、海陽町、高知県東洋町で防災無線により周知を図った。</p> <p>さらに、役場職員や自治会を通じた各世帯への戸別配布・声掛けを行った。これらの効果もあり、東洋町の回収率は増加したが全体では減少となった。</p> <p>⇒地域住民等アンケート 前回回収率 42.6% → 今回回収率 37.8%</p>

## 2. 第2回意見聴取の結果

## 2. 第2回意見聴取の結果(意見聴取の実施概要)

○意見聴取は、説明会(オープンハウス)を開催し、アンケート調査及びヒアリング調査を以下のとおり実施した。

	対象者	実施期間	回収方法	実施概要	回答状況
説明会	地域住民	平成26年9月27日(土) ～ 9月30日(火)	—	徳島県牟岐町、海陽町、高知県東洋町の住民の方などを対象に説明会(オープンハウス)を開催 牟岐町:ショッピングセンター ポルトむぎ、海陽町:ショッピングセンターピアカイク、東洋町:海の駅東洋町(各会場とも、のべ4日間)	来訪者256人
アンケート調査	地域住民	平成26年9月24日(水) ～ 10月22日(水)	郵送回収	徳島県牟岐町、海陽町、高知県東洋町の全世帯・全事業所(住民:8,022世帯、事業所:887社)に配布	回答数:3,372票 (回収率:37.8%)
	企業等	平成26年9月24日(水) ～ 10月22日(水)	郵送回収		
	道路利用者	平成26年9月24日(水) ～ 10月22日(水)	郵送回収	道の駅公方の郷なかがわ、道の駅日和佐、道の駅穴喰温泉、道の駅キラメッセ室戸、道の駅田野駅屋、道の駅大山、海の駅東洋町、モラスコむぎ貝の資料館・漁師さんの水族館、まぜのおかオートキャンプ場、阿波海南文化村、海洋自然博物館マリンジャム、北川村温泉で配布	回答数:32票
	道路利用者 (WEB)	平成26年9月24日(水) ～ 10月22日(水)	WEB上で回収	四国地方整備局、徳島河川国道事務所、土佐国道事務所、徳島県、牟岐町、海陽町、東洋町のHP上にアンケートを掲載	回答数:246票
ヒアリング調査	自治体及び 団体代表者	平成26年9月24日(水) ～ 10月22日(水)	インタビュー形式での ヒアリングを実施	【自治体】 徳島県、高知県、牟岐町、海陽町、東洋町 及び阿南市、美波町、室戸市、安芸市、奈半利町、田野町、安田町、北川村、馬路村 【各団体等】 トラック協会、商工会議所、商工会、消防署、警察、バス事業者、農協、漁協、観光協会、医療関係、 県・市町村から地域代表として推薦いただいた地域の活動団体(うち、女性団体は6団体)	【自治体】 14自治体 【各団体等】 99団体
	道路利用者	平成26年10月17日(金) ～10月18日(土)		【道の駅、観光施設の利用者】 道の駅公方の郷なかがわ、道の駅日和佐、道の駅穴喰温泉、道の駅キラメッセ室戸、道の駅田野駅屋、道の駅大山、海の駅東洋町、モラスコむぎ貝の資料館・漁師さんの水族館、まぜのおかオートキャンプ場、阿波海南文化村、海洋自然博物館マリンジャム、北川村温泉	736人



## 2. 第2回意見聴取の結果(説明会(オープンハウス)の開催状況)

○アンケート調査の実施にあたり、地域住民の方などを対象として、牟岐～野根間の各ルート帯案の計画内容やアンケート内容についての説明会(オープンハウス)を徳島県牟岐町、海陽町及び高知県東洋町で開催した。

○説明会(オープンハウス)の開催にあたっては、案内チラシをアンケート票配布封筒に同封し、地域住民の方などへ周知を図った。

### ▼説明会(オープンハウス)の開催状況

地域	開催場所	開催期間	開催時間	来訪者数
牟岐町	ショッピングセンター ポルトむぎ	9月27日(土)～9月30日(火) (のべ4日間)	10:00～20:00	77人
海陽町	ショッピングセンター ピアカイフ			119人
東洋町	海の駅 東洋町		10:00～17:00	60人
				合計 256人

### ▼説明会(オープンハウス)の周知

○案内チラシを徳島県牟岐町、海陽町及び高知県東洋町の全世帯・全事業所へ配布

### ▼新聞報道

○徳島新聞  
平成26年9月28日(日)掲載

### ▼説明会(オープンハウス)開催状況

○海の駅東洋町  
平成26年9月27日(土)の状況

○ショッピングセンター ポルトむぎ  
平成26年9月28日(日)の状況

**阿南安芸自動車道【牟岐～野根間】第2回アンケート 道路の計画やアンケートについてご説明します!**

**説明会(オープンハウス)の実施について**

**実施内容** 第1回目に頂いたアンケート結果やルート案(案)を検討する際に考慮すべきポイント及びルート案(案)の概要などをご説明いたします。  
※ルート案(案)とは、計画する道路が縦横通過すると考えられる範囲を指したものです。

開催場所・日時	牟岐町	海陽町	東洋町
開催場所	ショッピングセンター ポルトむぎ (住所)徳島県牟岐町中村106-10	ショッピングセンター ピアカイフ (住所)徳島県海陽郡海陽町美津野10200	海の駅 東洋町 (住所)高知県東洋町白鳥08-1
開催日時	9月27日(土)～9月30日(火) 10:00～20:00	9月27日(土)～9月30日(火) 10:00～20:00	9月27日(土)～9月30日(火) 10:00～17:00

**お問い合わせ先** 国土交通省 四国地方整備局 徳島河川国道事務所 道路調査第一課 TEL 088-654-9612

**実施主体** 国土交通省 四国地方整備局 徳島河川国道事務所 土佐国道事務所

**海部道路ルート案展示** 牟岐・海陽で 四国整備局

国土交通省四国地方 芸予自動車道・海部道路 町野根区間で検討している2ルート案に関する資料展示を牟岐、海陽町の量販店で始めた。30日まで。

牟岐町中村のショッピングセンター「ポルトむぎ」では、職員ら4人が訪れた住民らにパネルや地図を使ってルート案を紹介。山間部に自動車専用道路を通すバス案(約24キロ)と国道55号の改良案(約27キロ)の種類の違いや工事費に約倍近い差が出ることを説明していた。

整備局は牟岐、海陽、東洋の沿線3町で、案への理解を深め、示を行うとしている。(谷利彦)



○ショッピングセンター ピアカイフ  
平成26年9月28日(日)の状況



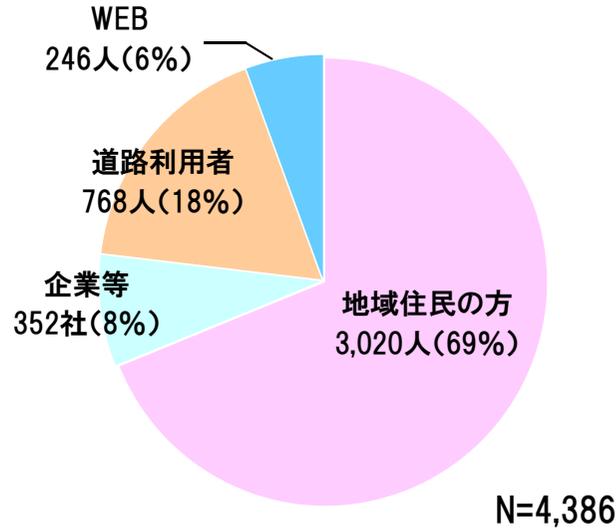
○ショッピングセンター ピアカイフ  
平成26年9月29日(月)の状況



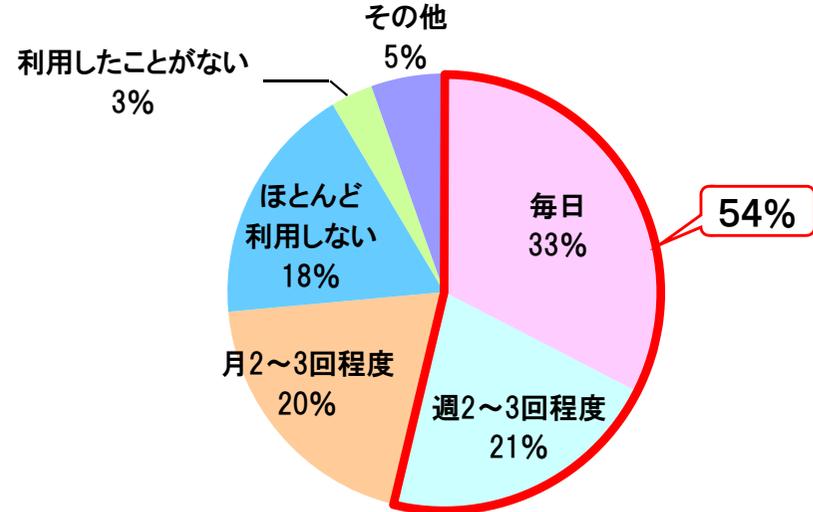
## 2. 第2回意見聴取の結果(アンケート結果①)

- 地域住民 3,020人、企業等 352社、道路利用者 768人、WEB 246人から回答をいただいた。
- 回答者の約8割が、対象地域である徳島県牟岐町・海陽町、高知県東洋町に居住(企業等は所在地)。
- 回答者の約5割が、国道55号 牟岐～野根間を「週に2～3回程度以上利用」と回答。
- 利用目的は、「家事・買い物」が約4割、「仕事と通勤」が約3割と日常的な利用が大半。

### ▼アンケート回収結果

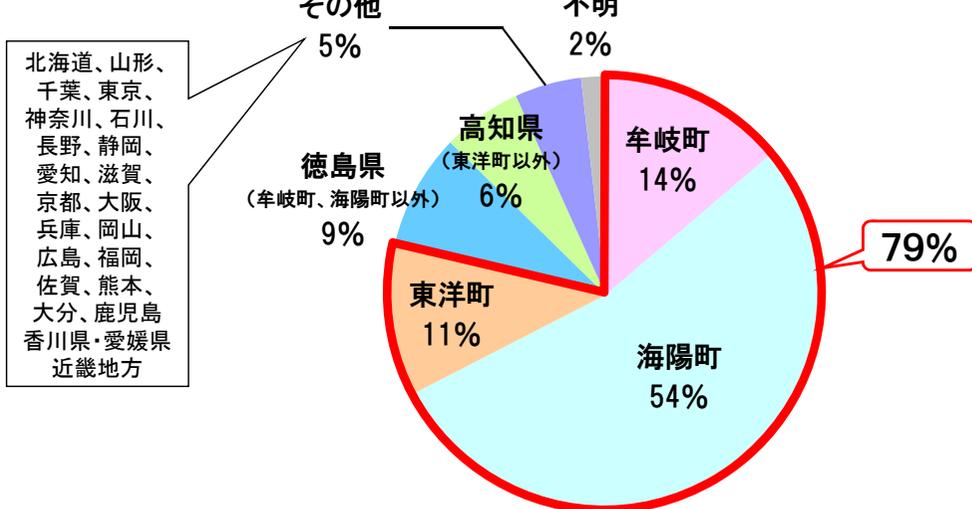


### ▼国道55号 牟岐～野根間の利用頻度



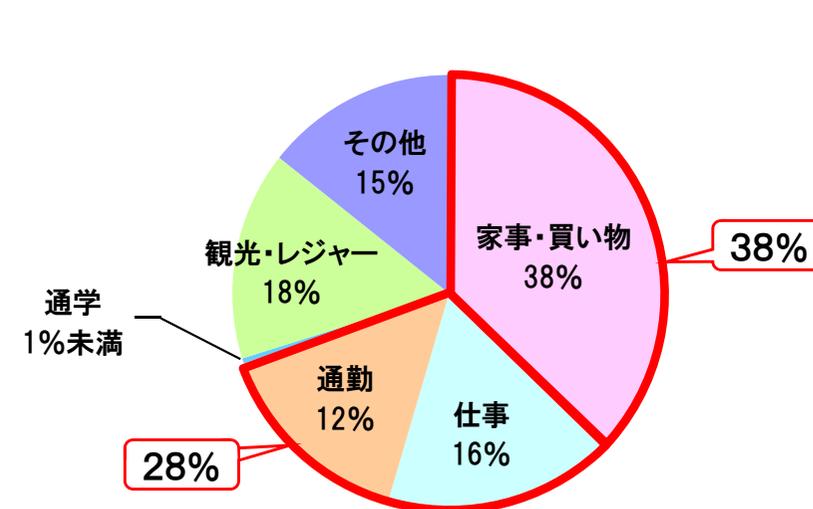
※その他には、選択項目以外の回答の方、未回答及び複数回答の方を含む

### ▼回答者住所



※不明は、未回答及び複数回答の方を含む

### ▼利用目的



※その他には、選択項目以外の回答の方、未回答の方を含む

## 2. 第2回意見聴取の結果(アンケート結果②)

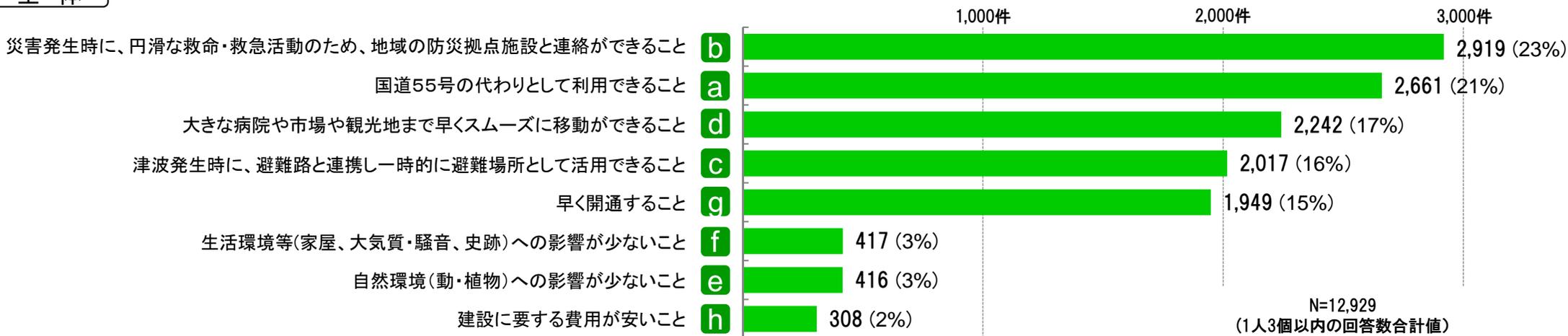
### (1) 望ましいルート帯案を考える際に、重要と思う項目について

○重要と思う項目では、「**b** 災害発生時に、円滑な救命・救急活動のため、地域の防災拠点施設と連絡ができること」、「**a** 国道55号の代わりとして利用できること」が最も重要とされている。

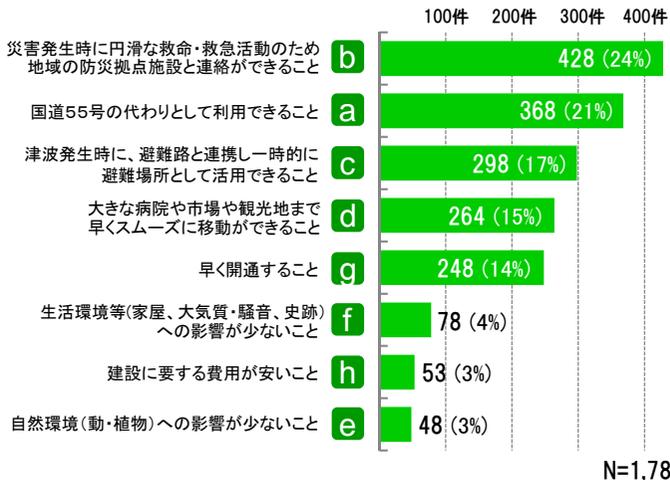
○地域別では、意見に大きな違いは見られなかったが、牟岐町では、「**c** 津波発生時に、避難路と連携し一時的に避難場所として活用できること」が他の地域に比べ重要度が高いとされている。

問1-1: あなたの住む地域(牟岐町、海陽町、東洋町)にとって、望ましいルート帯案を考える際に、何が重要と思いますか? ※項目 **a** ~ **h** の中から3つ選ぶ

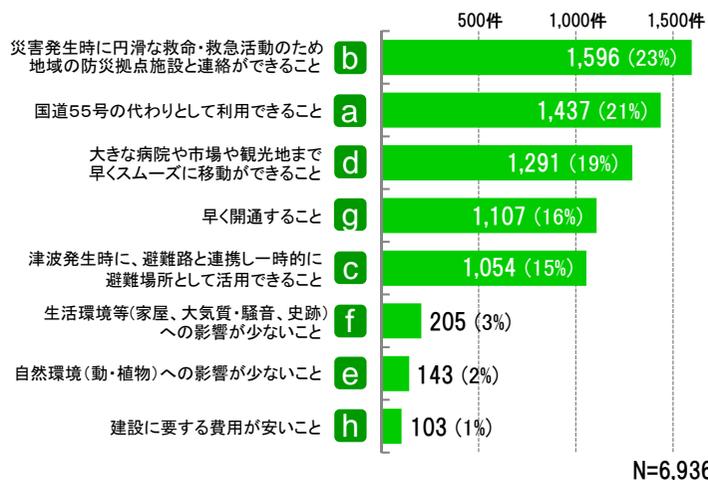
#### 全体



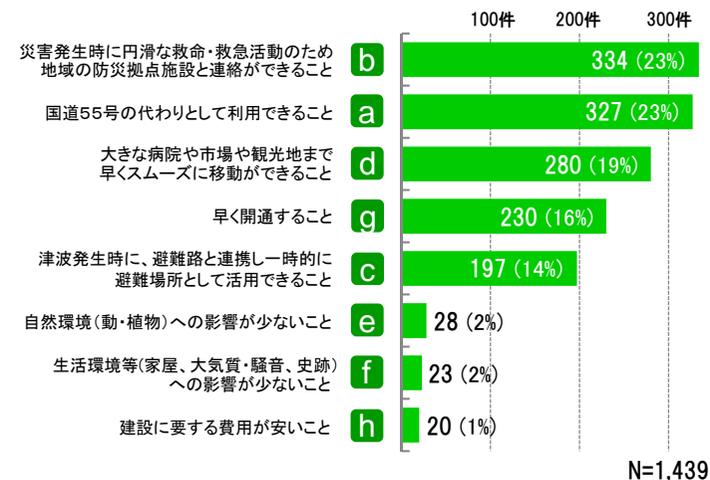
#### 牟岐町



#### 海陽町



#### 東洋町

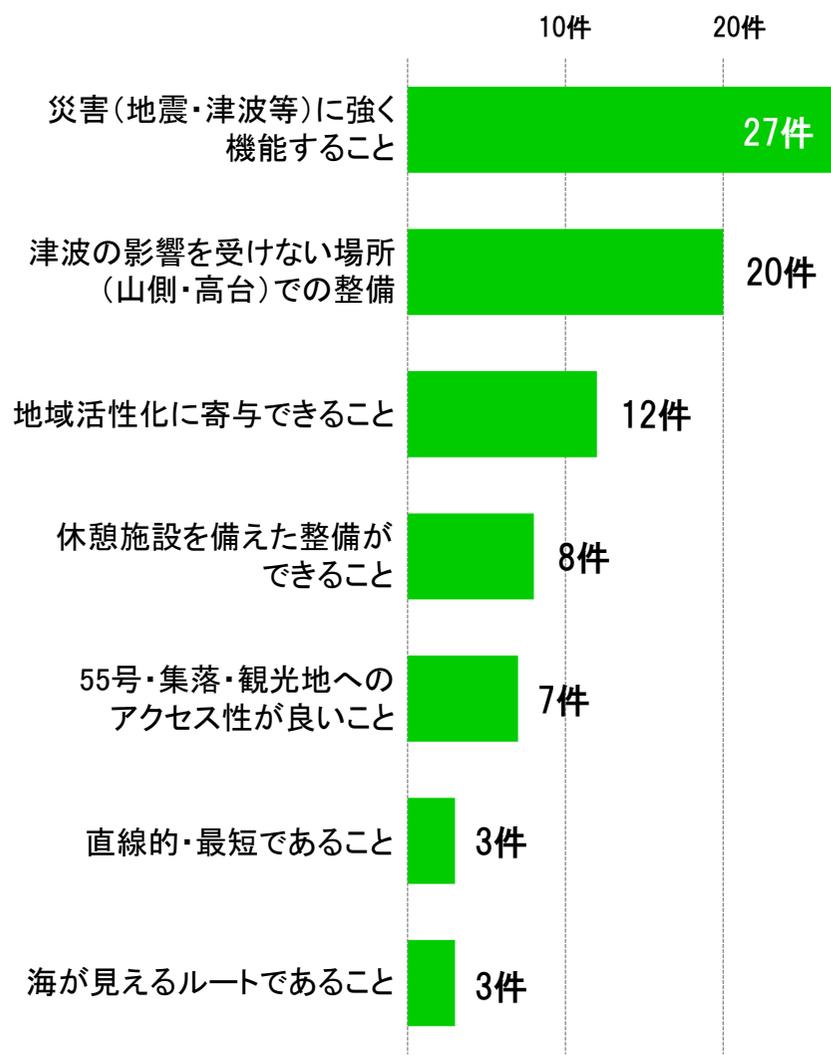


## 2. 第2回意見聴取の結果(アンケート結果③)

(2) 望ましいルート帯案を考える際に、重要となる項目について(項目 **a** ~ **h** 以外の自由意見 )

○項目 **a** ~ **h** 以外で重要と思う項目では、「災害(地震・津波等)に強く機能すること」が重要との意見が最も多く寄せられた。

問1-2: 項目 **a** ~ **h** 以外で、重要と思うものがあれば、ご自由にお書きください。



※その他 272件 「案〇を支持等の直接的な意見」、「否定的な意見」などに関する意見

### <主な意見>

項目	自由意見
災害(地震・津波等)に強く機能すること	<ul style="list-style-type: none"> <li>■土砂崩れ、強風、海の波など、災害に影響されない場所。<u>道路自体が強く安全なこと</u>。(50代 女性)</li> <li>■<u>構造が耐震性を持ち、土砂災害などに対しても十分な応力</u>があること。(20代 男性)</li> <li>■大雨で55号が通行止めになる。<u>災害に強い道の整備</u>は必須。(70代 女性)</li> <li>■<u>地震等のことを重点的に考えた上でのルート選定</u>を望む。(40代 男性)</li> </ul>
津波の影響を受けない場所(山側・高台)での整備	<ul style="list-style-type: none"> <li>■津波対策を考えるなら<u>沿岸ルートは外すべき</u>。(40代 男性)</li> <li>■なるべく、海岸から離れた<u>山のルートが良いのでは</u>。<u>津波の被害から遠ざける</u>。(40代 男性)</li> <li>■津波災害時に、物資・人の移動ができる<u>山側の道路の確保</u>。(50代 女性)</li> <li>■災害に強いと言っても<u>海沿いに造っては意味がない</u>ように思う。(60代 男性)</li> </ul>
地域活性化に寄与できること	<ul style="list-style-type: none"> <li>■交流時間の短縮による、<u>産業活性化へのビジネスチャンス</u>等、付加価値への期待が大きい。(40代 男性)</li> <li>■<u>地域の振興に役立つルート</u>を考えるべき。(60代 男性)</li> <li>■<u>地域観光にメリット</u>があるようにしてほしい。(20代 女性)</li> </ul>
休憩施設を備えた整備ができること	<ul style="list-style-type: none"> <li>■景観の良いところに<u>SP、PAを設けてほしい</u>。ただし、自然への影響を考慮。(50代 男性)</li> <li>■道路沿いに<u>避難スペースやトイレ</u>を作っておいてほしい(70代 男性)</li> </ul>
55号・集落・観光地へのアクセス性が良いこと	<ul style="list-style-type: none"> <li>■四国霊場などを訪問するのに県外客が利用しやすいよう、<u>観光地・商業地にできるだけ近いところ</u>に建設してもらいたい。(60代 男性)</li> <li>■高規格道路を造るにあたり、できるだけ<u>国道との利便性を考え、向上してもらいたい</u>ような形で<u>ルートを選定</u>してもらいたい。(70代 男性)</li> </ul>
直線的・最短であること	<ul style="list-style-type: none"> <li>■あまり蛇行していないで、出来るだけ<u>最短距離</u>であってほしい。(40代 女性)</li> <li>■出来る限り<u>コースと距離は短く</u>して、短時間で県部まで行けるようになること。(60代 男性)</li> </ul>
海が見えるルートであること	<ul style="list-style-type: none"> <li>■新しいルートから<u>海が見えること</u>(60代 男性)</li> </ul>

## 2. 第2回意見聴取の結果(アンケート結果④)

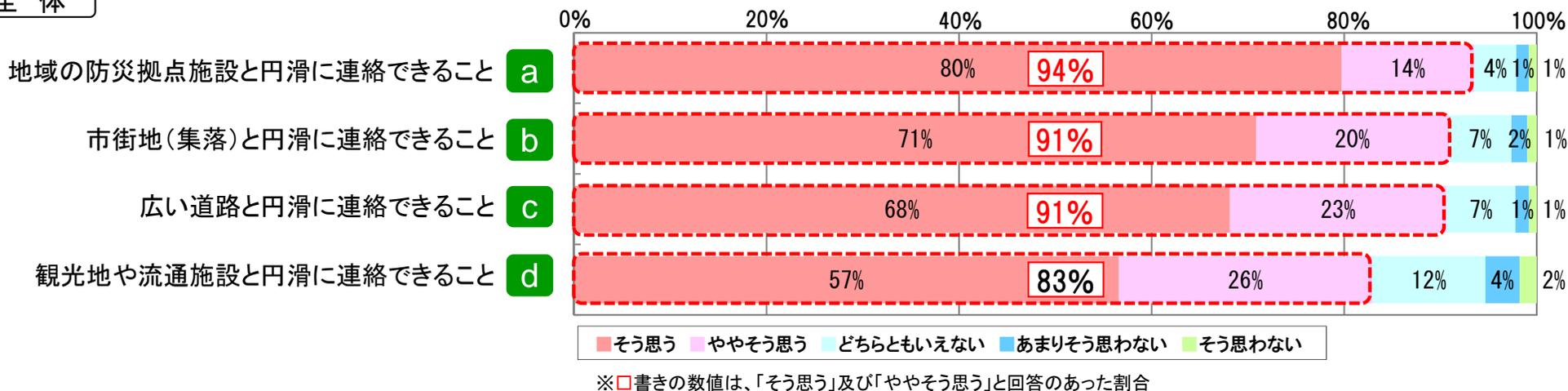
### (3) インターチェンジを作るところを考える際に、重要と思う項目について

○回答者の8割以上の方が、すべての項目を重要とされている。

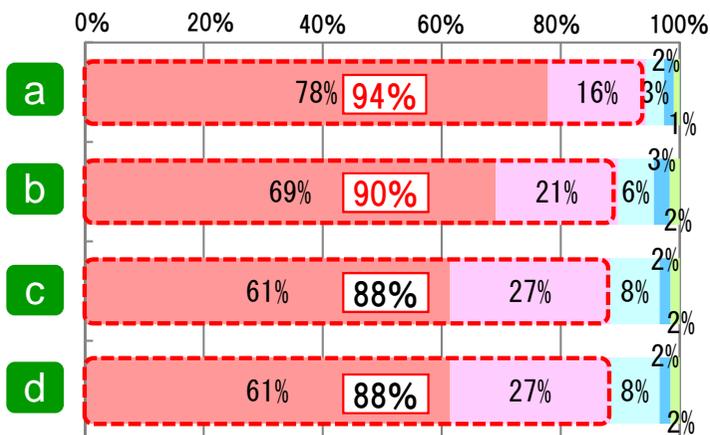
○特に、「**a** 地域の防災拠点施設と円滑に連絡できること」、「**b** 市街地(集落)と円滑に連絡できること」、「**c** 広い道路と円滑に連絡できること」が最も重要とされている。

問2-1: インターチェンジを作るところを考える際に、何が重要と思いますか? ※項目 **a** ~ **d** のそれぞれについて5段階で評価

#### 全体



#### 牟岐町



#### 海陽町



#### 東洋町

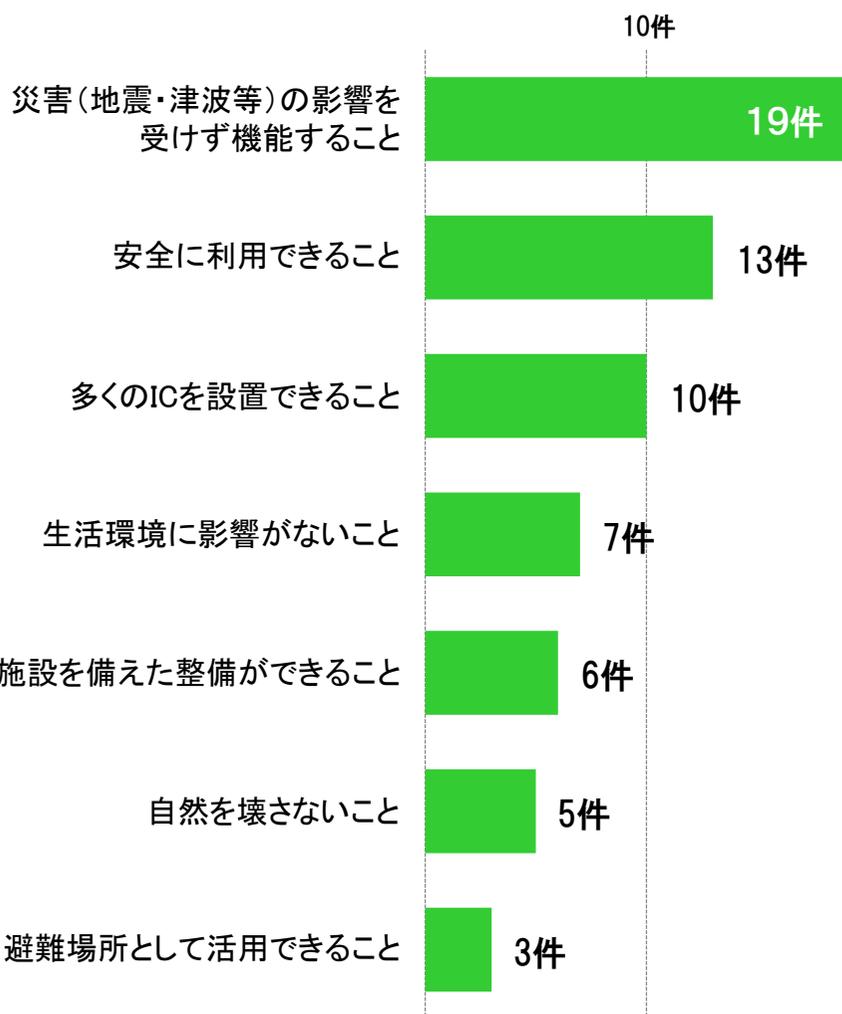


## 2. 第2回意見聴取の結果(アンケート結果⑤)

(4) インターチェンジ(IC)を作るところを考える際に、重要と思う項目について(項目 a ~ d 以外の自由意見)

○項目 a ~ d 以外で重要と思う項目は、「災害(地震・津波等)の影響を受けず機能すること」が重要との意見が最も多く寄せられた。

問2-2: 項目 a ~ d 以外で、重要と思うものがあれば、ご自由にお書き下さい。



※その他 206件 「早期整備」、「具体的なICの位置」などに関する意見

### <主な意見>

項目	自由意見
災害(地震・津波等)の影響を受けず機能すること	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ <u>大津波が予想される地域</u>なので、ある程度の<u>高さ</u>を確保すべき。(不明)</li> <li>■ 現55号とのアクセス性が良くなければ利用者が少なくなるが、<u>災害時用として必ず使えることを前提</u>にしっかり考えてほしい。(30代 男性)</li> <li>■ <u>大津波の影響が少なく</u>、しかも市街地にほど近い場所が良いと思う。(40代 男性)</li> <li>■ 津波の時に<u>影響のない場所でのインターチェンジ</u>。(60代 男性)</li> </ul>
安全に利用できること	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ <u>進入口、出口等が見やすいことが大切</u>である。高齢者にも配慮してほしい。(70代 男性)</li> <li>■ <u>交通事故が起こらないようにスムーズに出入り</u>ができること(不明)</li> <li>■ 初心者でも<u>スツと行ける</u>こと。(70代 女性)</li> </ul>
多くのICを設置できること	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 現存の道路との<u>出入り力所を多く</u>もうけてほしい。(70代 男性)</li> <li>■ 小さくても、<u>こまめにインターチェンジがあればいい</u>。(50代 男性)</li> <li>■ <u>旧町村毎にインターチェンジがあればよい</u>。(不明)</li> </ul>
生活環境に影響がないこと	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ <u>生活環境等への影響が少ないこと</u>。(住民に迷惑がかからないところ)(スクールゾーンが近くになり騒音・農作業者に迷惑等)(40代 女性)</li> <li>■ <u>生活環境等(家屋・大気質・騒音)への影響が少ないこと</u>。(60代 女性)</li> <li>■ 日照権の問題もあるので、<u>家や田畑になるべく影響のない場所</u>。(50代 女性)</li> </ul>
休憩施設を備えた整備ができること	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ <u>SA・PAが併設できる場所</u>。(40代 男性)</li> <li>■ <u>インター出入口にトイレブースを作</u>ってほしい。(不明)</li> </ul>
自然を壊さないこと	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ <u>自然環境への影響が少ないこと</u>。(50代 女性)</li> <li>■ <u>自然環境や文化環境への十分な配慮</u>。(30代 男性)</li> </ul>
避難場所として活用できること	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ <u>津波避難場所</u>に利用する為に、甲浦・生見・野根から上がれるインターチェンジを作ってほしい。(不明)</li> </ul>

## 2. 第2回意見聴取の結果(アンケート結果⑥)

### (5) 国道55号 牟岐～野根間の道路整備等について

- 南海トラフ地震への備えとして、また、地域活性化のために、「新たな道路の早期開通」を求める意見が非常に多く寄せられた。
- また、「国道55号の代わりとなる道路の整備」、「早くスムーズな移動ができる道路の整備」を求める意見も多く寄せられた。

問3: 国道55号 牟岐～野根間の道路整備等について、あなた自身が日頃から思う事など、ご意見やご要望をご自由にお書きください。

#### <主な意見>

項目	自由意見
新たな道路の早期開通 【411件】	<ul style="list-style-type: none"> <li>■3.11において初めて、新国道が命の提である事実が映像により証明された。人の命は平等である。町の悲願、<b>即、事業化を切望する</b>。(70代 男性)</li> <li>■県南の観光、地域産業発展の為に<b>早期開通を望む</b>。又開通によって阿南市まで通勤範囲となり、若者定住も増え、人口減少の抑制にもなる。(70代 男性)</li> <li>■いつ来るかわからない災害に強い道路を<b>一刻も早くお願いしたい</b>。小さい子供を持つ母親としていつも思う。道路がつく事でたくさんの不安を解消することが出来る。お願いします。(30代 女性)</li> </ul>
国道55号の代わりとなる道路の整備 【87件】	<ul style="list-style-type: none"> <li>■今年の台風で、周辺が浸水し、孤立し、避難するにも出来ない状況に恐怖を感じました。<b>55号以外のルート</b>も必要だと感じています。(30代 女性)</li> <li>■いつ発生するか分からない南海地震に備え、<b>新しい自動車道</b>のできるだけ早い完成を切に望みます。(40代 男性)</li> <li>■災害時のみならず、平時の救命救急等の観点からも<b>高速での移動ができる自動車の専用道路</b>として早期の整備を！(50代 男性)</li> </ul>
早くスムーズな移動ができる道路の整備 【72件】	<ul style="list-style-type: none"> <li>■助かる命が助けられるように<b>救急病院への搬送時間の短縮</b>が図れるよう検討願いたい。(50代 女性)</li> <li>■大きな病院へ<b>早くスムーズに移動出来ること</b>は日々の生活上で重要なことであると思う。(50代 女性)</li> </ul>
津波の影響を受けない場所(山側・高台)での道路の整備 【39件】	<ul style="list-style-type: none"> <li>■海岸線を走る国道55号は津波等があれば、孤立せざるをえなくなると思う。<b>海岸線から離れた安全なルート</b>を作ってほしいものです。(60代 女性)</li> <li>■津波等の災害から守る為、<b>高い所の道路</b>にするように希望します。(避難場所にもなる)(不明)</li> </ul>
災害(地震・津波等)に強く機能する道路の整備 【36件】	<ul style="list-style-type: none"> <li>■地震・津波のことがとても心配なのでとにかく早く<b>災害に強い道</b>を作ってほしい。(50代 男性)</li> <li>■早急に<b>自然災害時にも通行に支障のない道路</b>を造るべき。現状の幹線道路では何も対応できない。(不明)</li> </ul>
地域活性化を図ることのできる道路の整備 【36件】	<ul style="list-style-type: none"> <li>■徳島市、阿南市など主要都市のベッドタウンとして、進路・防災の整備を行えば<b>地域の人口減少にストップ</b>がかかるのではないのでしょうか。(50代 女性)</li> <li>■高速道路の開通により、<b>観光や企業誘致等、また通勤距離の延長につながり効果がでる</b>のではないかと考える。また、南部は自然環境もよく今後海、山、川等の自然を通じた<b>観光も期待ができる</b>。(50代 男性)</li> </ul>
否定的意見 【31件】	<ul style="list-style-type: none"> <li>■人口が減っているのに<b>道に金をかけるのはいかがなものか</b>と思う。(70代 女性)</li> <li>■<b>ハード面に予算を使う時代はもう終わります</b>。(20代 男性)</li> </ul>
地域の衰退を懸念する意見 【22件】	<ul style="list-style-type: none"> <li>■徳島空港、高速迄の時間が短縮できれば助かります。ただ、今迄の道が車の行き来が少なくなり、人の通りがなくなると<b>町に活気がなくなる気がします</b>。(50代 男性)</li> <li>■道路は便利になる反面、経済・商業面から言うと<b>町外への流出も増えることが不安</b>である。(不明)</li> </ul>
避難場所として活用ができる道路の整備 【16件】	<ul style="list-style-type: none"> <li>■出来るだけ高台に造り<b>防災避難場所</b>にしてほしい。(70代 男性)</li> <li>■<b>災害避難の機能</b>も考慮すること。(60代 男性)</li> </ul>
休憩施設を備えた道路の整備 【12件】	<ul style="list-style-type: none"> <li>■<b>道の駅なども整備</b>し、地域の特産品を販売し、地域の特産と観光客もとりこみ人と物が行きかうにぎわいのある広場を設ける事が必要と思う。(60代 男性)</li> </ul>

## 2. 第2回意見聴取の結果(ヒアリング結果①)

### (1) 望ましいルート帯案を考える際に、重要と思う項目について

○「**d** 大きな病院や市場や観光地まで早くスムーズに移動できること」、「**a** 国道55号の代わりとして利用できること」が重要との意見が最も多く寄せられた。

#### <主な意見>

項目	意見
<b>a</b> 国道55号の代わりとして利用できること 【32団体】	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 国道55号現道は津波被害を受けるため、<b>別線整備が必要</b>。(海陽町)</li> <li>■ リダンダンシーが大事であり、<b>現国道とは別の高規格道路が必要</b>。(美波町)</li> <li>■ <b>災害時に国道55号の代わりとして使える別ルートとなる道路</b>を安全なところに整備してほしい。注文を受ければ届けることは義務だと思っており、顧客へ確実に届けるという信頼維持のため、<b>別ルートの確保が大事</b>。(株)丸本、オンダン農業協同組合)</li> <li>■ 先般の台風通行止めで、国道55号や国道193号が通行止めになっていたため身動きがとれず、海部病院へ搬送できないため海南病院へ搬送した。<b>別線ルートの確保の必要性を感じた</b>。(海部消防組合本部 海南消防署)</li> </ul>
<b>c</b> 津波発生時に、避難路と連携し一時的に避難場所として活用できること 【12団体】	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ <b>地域の避難場所</b>にもなる道路が必要。(海陽町)</li> <li>■ 阿南安芸自動車道が<b>避難路や避難場所、防災基地として活用</b>できると良いと思う。(牟岐警察署)</li> <li>■ <b>集落の近くで避難に利用</b>できるようにつくるべき。ICでなくても避難口を設置して欲しい。(JF浅川)</li> </ul>
<b>d</b> 大きな病院や市場や観光地まで早くスムーズに移動ができること 【33団体】	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 荷主さんからの時間制限あり。<b>対象区間は距離の割に時間がかかる</b>。業界的には、時間短縮できるとうれしい。(徳島県トラック協会)</li> <li>■ 組合としては、伊勢エビ・アオリイカなどの<b>阪神方面への出荷をスムーズにしてい</b>ることが<b>1番大事</b>。(JF穴喰)</li> <li>■ 重篤患者の搬送時などで<b>日赤病院等までスムーズに搬送できると良い</b>と思う。<b>できるだけ速く、患者の負担が少ないことが重要</b>。(海部消防組合本部 牟岐出張所)</li> </ul>
<b>e</b> 自然環境(動・植物)への影響が少ないこと 【2団体】	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 室戸阿南海岸国定公園に沿ったルートとなるため、<b>自然環境・景観へ配慮</b>して頂きたい。(徳島県)</li> <li>■ 高知県東部の観光資源は自然である。自然しか無いような地域であるため、<b>自然を壊さない配慮をお願いする</b>。(東洋町観光振興協会)</li> </ul>
<b>g</b> 早く開通すること(早期整備) 【18団体】	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 国道55号が沿岸を通るとともに、迂回路が無く、過去の高潮時に孤立するなど、<b>当該区間の早急な整備</b>が求められる。(海陽町)</li> <li>■ 命の道として、<b>バイパスを1日も早く整備</b>してほしい。(海部郡婦人連合会)</li> <li>■ 現在の道路では救急搬送や消防活動が不安である。<b>一刻も早く整備</b>してほしい。(中芸消防署)</li> <li>■ 建設スピード早くして欲しい。1番重要。(四国はひとつ“阿波のみち”女性フォーラム実行委員会)</li> </ul>
災害(地震・津波等)に強く機能すること 【25団体】	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 災害通行止めが問題。回避できるのがベストであり、<b>雨風災害で止まらない道路が良い</b>。(徳島バス阿南(株)橋営業所)</li> <li>■ 体験学習の参加者は修学旅行生なので、豪雨で道路が通行止めになるとどうしようもない。<b>災害に強い道路であれば、課題解決につながる</b>。(南阿波よくばり体験推進協議会)</li> </ul>
地域活性化を図ることができること 【10団体】	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 道路ができれば<b>企業誘致もできる。経済効果も出てくる</b>。若者を引き付けるには、<b>通勤環境の整備が不可欠</b>。(土佐はちきん連合会)</li> <li>■ 県南がつながったら<b>観光商品もできやすくなる</b>。(阿南市観光協会、AMA地域連携推進協議会)</li> </ul>
津波の影響を受けない場所(山側・高台)での整備 【8団体】	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 民家に近い所で、<b>水害、津波に遭わない所</b>にルート帯を通すべき。(海陽町)</li> <li>■ 東日本大震災以降、地域住民の皆さんは<b>津波の影響を受けない場所・高さに道路があることが重要</b>と認識していると思慮。(美波町)</li> </ul>
55号・集落・観光地へのアクセスが良いこと 【8団体】	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 山側すぎると災害時にたどり着けない。集落は海側に集中しているので<b>集落から離れないルート</b>としてほしい。(JAかいふ本所)</li> </ul>

## 2. 第2回意見聴取の結果(ヒアリング結果②)

(2) インターチェンジ(IC)を作るところを考える際に、重要と思う項目について

○「**b**市街地(集落)と連絡できること」が重要との意見が最も多く寄せられた。

<主な意見>

項目	意見
<b>a</b> 防災拠点施設と連絡できること 【8団体】	■ <b>防災公園等</b> が計画されているのであれば、 <b>その施設と接続できるようにすべき</b> 。(NPO法人 阿南未来創造社)
<b>b</b> 市街地(集落)と連絡できること 【17団体】	■ <b>集落や人口が密集している箇所に設置</b> してほしい。(室戸消防署東洋出張所) ■ 防災の点では、 <b>避難しやすいよう集落の近くにあることが望ましい</b> 。(牟岐警察署)
<b>c</b> 広い道路と連絡できること 【5団体】	■ <b>国道55号及び国道193号からスムーズに接続</b> できる箇所。(海陽町)
<b>d</b> 観光地や流通施設と連絡できること 【10団体】	■ <b>体験施設や宿泊先にアクセスしやすいようICを設置</b> してほしい。[まぜのおか、マリンジャムなど] (南阿波よくばり体験推進協議会) ■ とても良い魚の産地なのに関西から時間がかかると言われる。 <b>ICが近距離にあればあるほど助かる</b> 。((株)岡水産)
避難場所として利用できること 【4団体】	■ 何かあったらスロープを活用して <b>避難場所へ行けるような整備が必要</b> 。(四国はひとつ “阿波のみち、女性フォーラム実行委員会)
多くのICを設置できること 【3団体】	■ ICがなければ素通りされるため、できるだけ <b>各地域毎に設置される方が良い</b> と思う。また、地域の方も利用しやすくしてほしいと思う。(徳島県南部地区広域市町圏振興協議会)

(3) その他の意見について

○「休憩施設の整備」を求める意見が多く寄せられた。

<主な意見>

項目	意見
休憩施設の整備について 【17団体】	■ 平時にはレストラン・産直市・公園広場、災害時にはヘリポートとしても利用可能な防災拠点として <b>リバーシブルに活用できる休憩施設を整備</b> して頂きたい。(徳島県) ■ <b>SA的なものを設けていただきたい</b> 。なお、ICを町内に多数箇所設けることが出来ない場合であっても、道にトイレ・物販施設等の <b>休憩施設機能を兼ね備えた防災拠点を整備</b> するとともに、集落からそこへのアクセス道路を整備することで、IC的な利用(道の駅をかいした出入)が可能になると思慮。(海陽町) ■ 本線上に <b>地域の拠点となる休憩施設や道の駅を整備</b> し、そこで地域の漁協や農協の組合が商売をできるようにすれば、地域の活性化につながると思う。また、 <b>休憩施設は海の見えるビューポイントに設置すれば、そこが観光資源</b> となることできる。(NPO法人阿南未来創造社)

## 【地域の課題(南海トラフ地震)】

- 牟岐町・海陽町・東洋町では、最大津波高19mが予測され、国道55号の牟岐～野根間では、約6割(最大浸水深約13m)が浸水すると予測されている。
- 牟岐町・海陽町・東洋町では、南海トラフ地震の被害軽減に向け、防災公園の整備などの防災まちづくりの検討が進められている。

## 【意見聴取の結果】

- 望ましいルート帯案について
  - ⇒ 地域住民等へアンケートでは、「国道55号の代わりとして利用できること」、「災害発生時に、円滑な救命・救助活動のため、地域の防災拠点施設と連絡ができること」、「災害(地震・津波等)に強く機能すること」が重要との意見が最も多く寄せられた。
  - また、団体等へのヒアリングでは、「国道55号の代わりとして利用できること」が重要との意見が最も多く寄せられた。



### **3. 対応方針(素案)の検討**

### 3. 対応方針(素案)の検討(政策目標と複数のルート帯案)

- 当該地域や道路の現状・課題を踏まえ、第1回意見聴取で確認のとれた『政策目標』を、達成するための役割を有する道路整備の対応方針(案)(複数のルート帯案)を設定
- 対応方針(案)(ルート帯案)の検討にあたっては、南海トラフ地震への対応、速達性・走行性、自然・生活環境の保全と調和、経済性等を考慮

#### 【政策目標】

①南海トラフ地震に備えた信頼性の高いネットワークの確保

- ・代替路の確保
- ・防災拠点施設や避難路との連携

②救急医療機関への速達性の向上・安静搬送の実現

③速達性・走行性の向上により産業振興を支援

④地域間の交流促進により広域的な観光振興を支援

#### 【ルート帯案検討にあたって考慮すべきポイント】

○ルート帯案の検討にあたっては、南海トラフ地震への対応、速達性・走行性、自然・生活環境の保全と調和、経済性等を考慮し検討する。

#### 《政策目標を達成するために考慮するポイント》

##### 南海トラフ地震への対応

- ・地震津波発生時に、国道55号の代わりとして利用できること
- ・地域の防災拠点施設と連携できること
- ・避難路と連携し、一時的に避難場所として活用できること

##### 速達性・走行性

- ・救急医療機関、市場及び観光地などへの速達性、走行性に優れていること

#### 《道路整備に際し配慮するポイント》

##### 自然環境・生活環境の保全と調和

- ・自然環境保全のため、動植物の生息域への影響等が少なくなるよう配慮する
- ・沿線住民の生活環境保全のため、市街地(集落)を分断しないよう配慮するとともに、地域の重要な施設(主要施設、公園等)を回避

##### 経済性等への配慮

- ・経済性に優れている道路構造(土工(切土、盛土))を基本とするとともに、建設に要する期間を極力短くする

#### 案① 市街地(集落)との連絡性を優先するバイパス案

市街地(集落)の極力近くを通るルートで自動車専用道路を整備する案  
(延長 24km 速度 80km/h 2車線)

#### 案② 現道改良案

現状の国道55号の急カーブ・急勾配・道路幅等を改良する案  
(延長 27km 速度 60km/h 2車線)

## ○案① 市街地(集落)との連絡性を優先するバイパス案



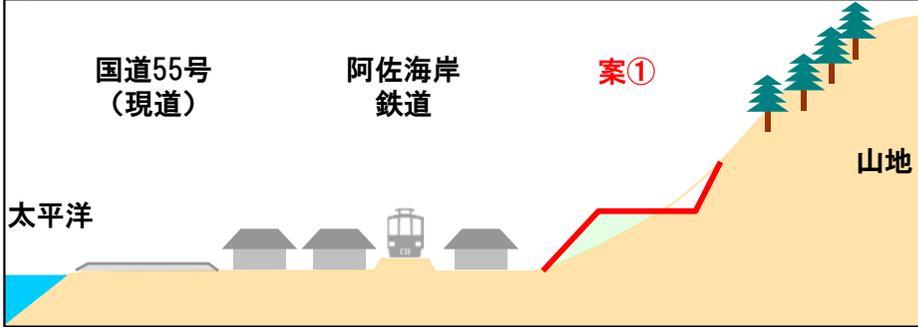
   : 地域防災公園検討(海陽町)  
   : 防災拠点整備予定(東洋町)

公共施設 : 学校(小・中・高)、消防署、警察署等公共施設  
 災害対策用ヘリポート : 「徳島県緊急輸送道路ネットワーク計画(H24.5)」および「警察・自衛隊がヘリコプター離着陸可能としている箇所」として指定されているヘリポート  
 防災拠点施設 : 「徳島県広域防災活動計画(H20.3)」、「徳島県緊急輸送道路ネットワーク計画(H24.5)」および「高知県緊急輸送道路ネットワーク計画(H21.1)」にて指定されている防災拠点施設  
 出典 : 津波浸水予測域及び、津波浸水予測区間(国道55号) H24.10.31 「徳島県津波浸水想定公表について」公表資料及び H24.12.10 「高知県版第2弾」南海トラフの巨大地震による震度分布・津波浸水予測について」公表資料に基づき作成  
 公園 : 徳島県HP「徳島県自然公園」及び高知県HP「高知県の自然公園」鳥獣保護区・徳島県HP「徳島県鳥獣保護区等位置図」及び高知県鳥獣対策資料 名勝・天然記念物、史跡等・徳島県教育委員会資料、高知県教育委員会資料 牟岐町・海陽町・東洋町の教育委員会資料

### ■整備目標

<b>整備概要</b>	延長 約 24 km
	速度 80 km/h 2車線 (自動車専用道路)
<b>コスト</b>	約 1,200 ~ 1,250 億円

### 〈A-A 付近のイメージ〉



※整備目標は、今後の詳細なルート・構造等の検討により変更となる場合があります。

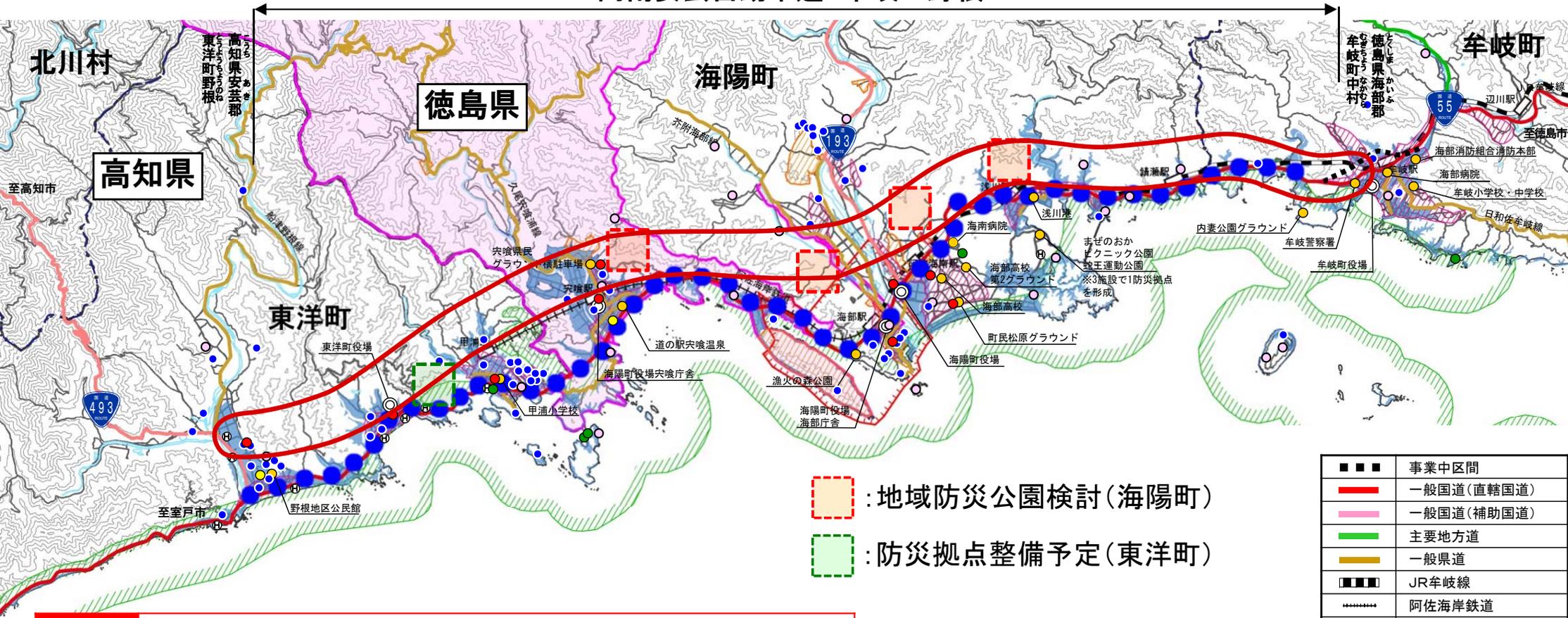
■ ■ ■	事業中區間
—	一般国道(直轄国道)
—	一般国道(補助国道)
—	主要地方道
—	一般県道
—	JR牟岐線
—	阿佐海岸鉄道
⊙	市役所・町役場(支所)
⚠	地すべり危険箇所
⦶	市街地(集落)
⦶	公園
⦶	鳥獣保護区
⦶	津波浸水予測域
⊕	災害対策用ヘリポート
●	防災拠点施設
●	公共施設
●	病院
●	道の駅や主要観光地
○	名勝・天然記念物
●	史跡等

### ■ルート帯の概要

**内容** ・市街地(集落)の極力近くを通るルートで、コスト縮減の観点から可能な範囲で土工(切土・盛土)構造を採用し、新たな自動車専用道路を整備する



## 阿南安芸自動車道 牟岐～野根



**案①** 市街地(集落)との連絡性を優先するバイパス案

**案②** 現道改良案

   : 地域防災公園検討(海陽町)  
   : 防災拠点整備予定(東洋町)



■ ■ ■	事業中区間
— (Red)	一般国道(直轄国道)
— (Pink)	一般国道(補助国道)
— (Green)	主要地方道
— (Yellow)	一般県道
— (Black/White)	JR牟岐線
— (Black/White)	阿佐海岸鉄道
◎	市役所・町役場(支所)
▨ (Yellow)	地すべり危険箇所
▨ (Pink)	市街地(集落)
▨ (Green)	公園
▨ (Red)	鳥獣保護区
▨ (Blue)	津波浸水予測域
Ⓜ	災害対策用ヘリポート
● (Yellow)	防災拠点施設
● (Red)	公共施設
● (Green)	病院
● (Blue)	道の駅や主要観光地
○ (Pink)	名勝・天然記念物
● (Blue)	史跡等

出典:津波浸水予測域及び、津波浸水予測区間(国道55号)  
 H24.10.31「徳島県津波浸水想定公表について」公表資料及び  
 H24.12.10「高知県版第2弾】南海トラフの巨大地震による震度  
 分布・津波浸水予測について」公表資料に基づき作成  
 公園:徳島県HP「徳島県の自然公園」及び高知県HP「高知県の自然公園」  
 鳥獣保護区:徳島県HP「徳島県鳥獣保護区等位置図」及び高知県鳥獣対策資料  
 名勝・天然記念物、史跡等:徳島県教育委員会資料、高知県教育委員会資料  
 牟岐町・海陽町・東洋町の教育委員会資料

公共施設:学校(小・中・高)、消防署、警察署等公共施設  
 災害対策用ヘリポート  
 :「徳島県緊急輸送道路ネットワーク計画(H24.5)」及び「警察・自衛隊がヘリコプター  
 離着陸可能としている箇所」として指定されているヘリポート  
 防災拠点施設  
 :「徳島県広域防災活動計画(H20.3)」、「徳島県緊急輸送道路ネットワーク計画(H24.5)」  
 及び「高知県緊急輸送道路ネットワーク計画(H21.1)」にて指定されている防災拠点施設

### 3. 対応方針(素案)の検討(ルート帯の概要及び比較)

○案①は、案②に比べ、全ての政策目標の達成が見込めるほか、地域への意見聴取結果で、重要との意見が多く寄せられた、「国道55号の代わりとして利用できること」、「災害発生時に円滑な救命・救急活動のため、地域の防災拠点施設と連絡ができること」、「大きな病院や市場や観光地まで早くスムーズに移動ができること」という点で優れている。

ルート帯の概要		案① 市街地(集落)との連絡性を優先するバイパス案	案② 現道改良案 (現状の国道55号の急カーブ・急勾配・道路幅等を改良する案)	
整備目標		延長 約24km 80km/hで走行できる自動車専用道路(2車線)	延長 約27km 60km/hで走行できる一般道路(2車線)	
改善される点 道路整備による効果	政策目標 ①	国道55号の代わりとして利用できるか?	国道55号の代わりとして利用できる	
	地震・津波発生時	地域の防災拠点施設への円滑な連絡が確保できるか?	円滑な連絡が確保できる	
		避難路と連携し、一時的に避難場所として活用できるか?	避難場所として活用できる	
	政策目標 ②③④	医療施設までの輸送時間や患者への負担は?(急カーブや信号交差点等の影響)	搬送時間の短縮や患者への負担軽減が見込まれる	
		目的地までの移動	市場までの輸送時間や商品の品質確保は?(急カーブや信号交差点等の影響)	輸送時間の短縮や商品の品質確保が見込まれる
			観光地への立寄箇所や滞在時間の増加は?(広域的な時間短縮等)	時間短縮により、立寄箇所や滞在時間の増加が見込まれる
よる影響 道路整備による影響	自然環境	動物への影響は?	影響の可能性はある	
		植物への影響は?	影響の可能性はある	
	生活環境等	家屋などへの影響は?	小さい	
		大気質及び騒音等の影響は?	影響の可能性はあるが小さい	
		重要な史跡等への影響は?	影響の可能性はある	
	その他	事業期間	建設に要する期間は?	長い
経済性		建設に要する費用は?	約1,200~1,250億円	

※整備目標は、今後の詳細なルート・構造等の検討により変更となる場合があります。  
 ※自然環境及び生活環境への配慮 ⇒ 今後の詳細なルート・構造等の検討段階で詳細な調査を実施し、影響の回避及び低減を図ります。また、整備にあたっては、自然環境及び生活環境に配慮した対策工を実施します。

#### ○地域住民・企業等へのアンケート及び団体等へのヒアリングの結果

##### 【ルート帯案について】

- ・アンケートでは、「災害発生時に、円滑な救命・救助活動のため、地域の防災拠点施設と連絡ができること」(23%)、「国道55号の代わりとして利用できること」(21%)が最も重要と思われる。
- また、「災害(地震・津波等)に強く機能すること」(27件)、「国道55号の代わりとなる道路の整備」(87件)、「早くスムーズな移動ができる道路の整備」(72件)が重要との意見も多く寄せられた。
- ・ヒアリングでは、「国道55号の代わりとして利用できること」(32団体)、「大きな病院や市場や観光地まで早くスムーズに移動できること」(33団体)が重要との意見が最も多く寄せられた。

##### 【インターチェンジ位置について】

- ・アンケートでは、「地域の防災拠点施設と円滑に連絡できること」(94%)、「市街地(集落)と円滑に連絡できること」(91%)、「広い道路と円滑に連絡できること」(91%)が最も重要と思われる。
- また、「災害(地震・津波等)の影響を受けず機能すること」(19件)が重要との意見が最も多く寄せられた。
- ・ヒアリングでは、「市街地(集落)と円滑に連絡できること」(17団体)が重要との意見が最も多く寄せられた。

##### 【その他】

- ・意見聴取全般において、「早期整備(開通)」(411件)を求める意見が非常に多く寄せられた。
- ・防災や観光の拠点となる「休憩施設の整備」(17団体)を求める意見も多く寄せられた。



#### ○ルート帯案とインターチェンジ位置の考え方

##### 【ルート帯案の考え方】

- ・国道55号の代わりとして、災害(地震・津波等)に強く機能し、災害発生時に円滑な救命・救助のため、地域の防災拠点施設と連絡ができるとともに、大きな病院や市場や観光地まで早くスムーズに移動することのできる自動車専用道路によるバイパス案とする。

##### 【インターチェンジ位置の考え方】

- ・災害(地震・津波等)の影響を受けず機能し、地域の防災拠点施設、市街地(集落)、広い道路と円滑に連絡できることに配慮した配置案とする。

##### 【その他】

- ・地域防災公園などの防災拠点施設との連絡方法、防災や観光の拠点となる休憩施設の整備について、今後、県及び町と連携して検討を行う。



## 4. 自治体への意見照会結果

## ■意見照会の回答

自治体名	意見
徳島県	<p>○阿南安芸自動車道 牟岐～野根における四国地方整備局としての対応方針(素案)のルート帯については同意します。</p> <p>○インターチェンジについては、海陽町穴喰地区は、南の産業・観光の拠点であり、また、昨年8月の豪雨災害においても当地区が孤立し、さらに「南海トラフ巨大地震」津波による甚大な被害と地域の孤立が想定されるため、「地方創生」及び「災害時における信頼性の高いネットワーク確保」の観点から、当地区にインターチェンジを設置していただくことを強く要望します。</p> <p>○阿南安芸自動車道は、四国8の字ネットワークを形成し、経済・産業振興に繋がる「活力の道」はもとより、平時の救急救命や災害時には緊急輸送道路となる「命の道」として、極めて重要で必要不可欠な道路でありますので、「牟岐～野根」の1日も早い事業化について、特段の御配慮をお願いいたします。</p>
高知県	<p>○計画段階評価における阿南安芸自動車道「牟岐～野根」の対応方針(素案)について、同意します。</p> <p>○阿南安芸自動車道は、四国8の字ネットワークを構成する幹線道路であり、県東部地域の経済の活性化や観光振興などを支える重要な社会基盤として、また、南海トラフ地震時には、救命・救援活動や物資輸送のための「命の道」として、県民一同、その完成を待ち望んでいますので、早期に事業着手されますよう、特段のご配慮をお願いいたします。</p> <p>○なお、事業の実施にあたりましては、県としまして沿線自治体との連携のもと、できる限りの協力をいたしますことを申し添えます。</p>

## ■意見照会の回答

自治体名	意見
牟岐町	<p>○阿南安芸自動車道 牟岐～野根の対応方針(素案)について同意します。</p> <p>○四国東南部では、広域的な幹線道路が国道55号線の1路線しかなく、台風による波浪や集中豪雨等の異常気象時にはたびたび通行止めとなります。</p> <p>○また、南海トラフ巨大地震による甚大な被害が想定されるなか、沿線市町村は完全に孤立し命と生活が脅かされることが危惧されます。このため、災害時の広域的救急医療の対応はもとより、産業・経済・観光の振興を図るためにも極めて必要不可欠な道路となりますので、早期に事業着手されますよう特段のご配慮をお願いいたします。</p>
海陽町	<p>○阿南安芸自動車 牟岐～野根 における対応方針のルート帯については、同意します。</p> <p>○南海トラフ巨大地震の深刻な津波被害想定に鑑み、本町突喰地区にインターチェンジを配置することに特段のご配慮をお願いします。</p> <p>○切迫する南海トラフ巨大地震への備えとして、「命の道」となり本町住民の医療、産業、観光振興において最も重要な道路となる本計画路線の早期事業化についてご配慮をお願いします。</p>
東洋町	<p>○阿南安芸自動車道 牟岐～野根における国土交通省四国地方整備局の対応方針(素案)『案①』に同意します。</p> <p>○「命の道」としての役割、防災・減災対策の強化のためにも、一日も早い事業化決定に特段の配慮をお願いします。</p>

## ■意見照会の回答(徳島県知事・高知県知事)



高第 82号  
平成27年 3月17日

国土交通省四国地方整備局長 殿

徳島県知事 

道路事業の計画段階評価に係る意見照会について  
(平成27.3.17国四整道計第46号に対する回答)

このことについて、阿南安芸自動車道 牟岐～野根における四国地方整備局としての対応方針(素案)のルート帯については同意します。

インターチェンジについては、海陽町穴喰地区は、南の産業・観光の拠点であり、また、昨年8月の豪雨災害においても当地区が孤立し、さらに「南海トラフ巨大地震」津波による甚大な被害と地域の孤立が想定されるため、「地方創生」及び「災害時における信頼性の高いネットワーク確保」の観点から、当地区にインターチェンジを設置していただくことを強く要望します。

阿南安芸自動車道は、四国8の字ネットワークを形成し、経済・産業振興に繋がる「活力の道」はもとより、平時の救急救命や災害時には緊急輸送道路となる「命の道」として、極めて重要で必要不可欠な道路でありますので、「牟岐～野根」の1日も早い事業化について、特段の御配慮をお願いいたします。

(問合せ先)  
(徳島県) 県土整備部道路局高規格道路課  
電話 (088) 621-2678  
E-mail koukikakudouroka@pref.tokushima.lg.jp



26高道路第1130号  
平成27年3月17日

国土交通省四国地方整備局長 様

高知県知事 

道路事業の計画段階評価に係る意見照会について(回答)

平素は、本県の道路行政の推進につきまして、格別のご協力をいただき厚くお礼申し上げます。

さて、平成27年3月17日付け国四整道計第46号で照会のありましたうえのことにつきまして、下記のとおり回答いたします。

記

計画段階評価における阿南安芸自動車道「牟岐～野根」の対応方針(素案)について、同意します。

阿南安芸自動車道は、四国8の字ネットワークを構成する幹線道路であり、県東部地域の経済の活性化や観光振興などを支える重要な社会基盤として、また、南海トラフ地震時には、救命・救援活動や物資輸送のための「命の道」として、県民一同、その完成を待ち望んでいますので、早期に事業着手されますよう、特段のご配慮をお願いいたします。

なお、事業の実施にあたりましては、県としまして沿線自治体との連携のもと、できる限りの協力をいたしますことを申し添えます。

## ■意見照会の回答(牟岐町長・海陽町長・東洋町長)

牟産建第 107号  
平成27年 3月17日

国土交通省  
四国地方整備局長 殿

徳島県  
牟岐町長 福井雅彦



道路事業の計画段階評価に係る意見照会について (回答)

平成27年3月17日付け国四整道計第46号にて照会のありました、阿南安芸自動車道 牟岐～野根の対応方針(素案)について同意します。

四国東南部では、広域的な幹線道路が国道55号線の1路線しかなく、台風による波浪や集中豪雨等の異常気象時にはたびたび通行止めとなります。

また、南海トラフ巨大地震による甚大な被害が想定されるなか、沿線市町村は完全に孤立し命と生活が脅かされることが危惧されます。このため、災害時の広域的救急医療の対応はもとより、産業・経済・観光の振興を図るためにも極めて必要不可欠な道路となりますので、早期に事業着手されますよう特段のご配慮をお願いいたします。

海建第217号  
平成27年3月17日

国土交通省  
四国地方整備局長 殿

徳島県海部郡海陽町  
海陽町長 前田 亮



道路事業の計画段階評価に係る意見照会について (回答)

平成27年3月17日付け国四整道計第46号の意見照会について、下記のとおり回答します。

記

1. 阿南安芸自動車道 牟岐～野根 における対応方針のルート帯については、同意します。
2. 南海トラフ巨大地震の深刻な津波被害想定に鑑み、本町穴喰地区にインターチェンジを配置することに特段のご配慮をお願いします。
3. 切迫する南海トラフ巨大地震への備えとして、「命の道」となり本町住民の医療、産業、観光振興において最も重要な道路となる本計画路線の早期事業化についてご配慮をお願いします。

26東産業第280号  
平成27年3月17日

国土交通省  
四国地方整備局長 殿

東洋町長 松延 宏幸



道路事業の計画段階評価に係る意見照会について (回答)

平成27年3月17日付け国四整道計第46号の意見照会について、下記のとおり回答いたします。

記

阿南安芸自動車道 牟岐～野根における国土交通省四国地方整備局の対応方針(素案)『案①』に同意します。

「命の道」としての役割、防災・減災対策の強化のためにも、一日も早い事業化決定に特段の配慮をお願いします。

## 5. 対応方針(案)のまとめ

## 1. 道路整備の必要性

政策目標を実現できる道路整備を検討

### 【政策目標】

- ①南海トラフ地震に備えた信頼性の高いネットワークの確保
  - ・代替路の確保
  - ・防災拠点施設や避難路との連携
- ②救急医療機関への速達性の向上・安静搬送の実現
- ③速達性・走行性の向上により産業振興を支援
- ④地域間の交流促進により広域的な観光振興を支援

- 当該地域は、南海トラフ地震発生時に、最大津波高19mが、国道55号の約6割が浸水すると予測  
また、国道55号は急カーブ等が多く、台風に伴う豪雨や高波による通行止めも発生、日常の通行、  
救急搬送及び農産品等の輸送などに支障
- 地震津波発生時に地域の分断・孤立を解消、円滑な救命・救急活動のアクセスを確保、また、地域  
住民の安全性・利便性の向上及び産業・観光振興を支援するためには信頼性・速達性・走行性に  
優れた道路の整備が急務
- 意見聴取結果でも、国道55号の代わりとして災害時に機能し、円滑な救命・救助活動のため、地域  
の防災拠点施設と連絡ができるとともに、大きな病院や市場や観光地まで早くスムーズに移動が  
できる道路が重要という意見が多く、このような政策目標を実現できる道路の早期整備が強く望まれて  
いる。

## 2. 対応方針(案)

### (1) ルート帯について

『案① 市街地(集落)との連絡性を優先するバイパス案』を対応方針(案)とする。

### 【理由】

○案①は、案②に比べ、すべての政策目標の達成が見込め、地域への意見聴取結果で、重要との意見が多く寄せられた、「国道55号の代わりとして利用できること」、「災害発生時に円滑な救命・救急活動のため、地域の防災拠点施設と連絡ができること」、「大きな病院や市場や観光地まで早くスムーズに移動できること」という点で優れており、日常はもとより、地震・津波などの災害発生時においても、信頼性・速達性・走行性に優れた道路ネットワークを形成することができる。

○また、地域への意見聴取結果で、「災害(地震・津波等)に強く機能すること」が重要との意見も多く、案①は、地域のニーズにも応えられる。

### (2) インターチェンジ位置について

○地域への意見聴取結果で、重要との意見が多く寄せられた、災害(地震・津波等)の影響を受けず機能し、地域の防災拠点施設、市街地(集落)、広い道路と円滑に連絡できることに配慮した配置案とする。

## 3. その他

○詳細なルート・構造の検討にあたって、自然環境や生活環境等への影響、整備期間の短縮及びコスト縮減に配慮する。

○地域防災公園などの防災拠点施設との連絡方法、防災や観光の拠点となる休憩施設の整備について、今後、県及び町と連携して検討を行う。

○特に、宍喰地区は、地震・津波発生時に大きな被害が予測され、分断・孤立が懸念される地区であるため、地域防災公園の整備と合わせて自動車専用道路への出入口の確保について、今後、県及び町と連携して検討を行う。

